特集

トラック運送業界とSDGs

エスディージーズ

第6回

持続可能なトラック運送業界の実現を目指して
名備運輸㈱のSDGs推進への取り組み

本特集では、SDGs（持続可能な開発目標）とトラック運送業界の関わり方について紹介します。……㈱（丸川靖彦代表取締役社長）の取り組みを紹介します。

「人を大切にする会社」として改革を推進
満足度向上への取り組みをSDGsに活かす

丸川　靖彦
代表取締役社長

名備運輸㈱は、自動車部品の工場間輸送やガス機器の配送などを行う、地場輸送に特化した運送会社である。

丸川社長は平成15年、同社の代表取締役社長に就任した。その当時、同社では従業員の出入りが激しく、また事故も少なからず起こっていたという。こうした中、18年に乗ってきた28年1月1日、SDGsが正式に発効した。SDGsの考え方が世界中に浸透していく中で、丸川社長もSDGsの考え方を知った。従来から推進してきた、同社を良くしていくための取り組みの多くがSDGsに当てはまっていたこともあり、令和3年、同社ではホームページ内にSDGsへの取り組みを紹介するページを立ち上げ、SDGsに取り組む姿勢を明確化した。

同社では平成30年から、従業員の健康を第一に考え、様々な取り組みを推進している。

そのきっかけとなったのは、高齢の従業員2人が肺がんで亡くなったことである。丸川社長は従業員の死に直面し、「非常に申し訳ないことをした」と感じたという。そこで、同社では従業員の健康を守っていくために、従業員の健康管理を強化した。

まず、従業員が肺がんで亡くなったこともあり、喫煙が健康に及ぼす悪影響を考慮し、令和元年からトラック全車両を禁煙化。また、禁煙外来費用を全額会社で負担するなど、従業員の喫煙率を下げるための取り組みを進めている。

また、「乗務前血圧測定の徹底」や「毎月の体重測定」、「インフルエンザ予防接種費用全額補助」など、従業員の健康維持への取り組みを強化している。さらに、2年度からは、「健康経営優良法人」としての認定も受けている。

「環境負荷軽減」は運送事業者の責務に
将来を担う子どもたちへの支援も展開

地域清掃の実施など、環境負荷軽減への取り組みも進める

地元中学生に物流の仕事に触れる機会を提供する「職業体験」

③地球温暖化、資源枯渇の問題改善に向けた、より良い環境づくりを目指して（「開発目標7：エネルギー」、「開発目標13：気候変動」）

道路という公共の財産を利用して事業を運営するトラック運送事業者にとって、「環境負荷の軽減」は決して欠かすことのできない責務であると言えるだろう。

同社では、月初に各ドライバーが1か月の燃料使用量の目標を設定し、月末に1か月の走行距離と燃料使用量を算出。ドライバーが自発的にエコドライブを推進できるような態勢を整えている。

また、太陽光発電システム（前述）による再生可能エネルギーの活用や、燃費性能の良い車両への入れ替え、さらに地域清掃の実施など、環境負荷の軽減への取り組みを進めている。

④豊かな未来を築くために、子どもたちへの支援活動（「目標4：教育」など）

同社では、将来を担う子どもたちへの支援活動を積極的に展開している。

平成20年からは、小牧市内の中学校が実施している「職業体験」に協力。日常点検や洗車などを体験してもらうほか、実際にトラックの助手席に乗ってもらうなど、物流の仕事に触れる機会を提供している。

また、NPO法人への活動支援を通じ、東南アジアやアフリカの子どもたちへの生活支援を行っているほか、令和元年から入院生活を送っている子どもたちのために、同社の従業員が病院に出向き、絵本の読み聞かせボランティアを行っている。

さらに、平成28年からは、子どもの絵でトラックをラッピングし、事故抑止に貢献するために、「こどもミュージアムトラック」を実施。その後、令和3年の創業50周年事業を社会福祉に役立てたいとの思いから、地元社会福祉法人の協力のもと「50周年記念トラック」を製作。障がい者が描いたイラストを車体デザインに採用し、トラックを目にする地域住民にやさしい気持ちを届けている。

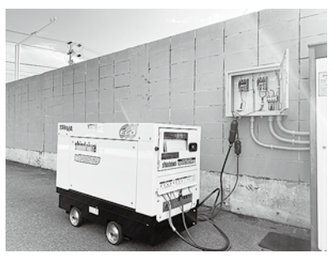
物流維持に欠かせない「安全性向上」対策
従業員の健康維持・増進活動も強化

それでは、同社におけるSDGsへの取り組みについて紹介していく。

①全ての人に信頼される持続可能な物流インフラを提供（「開発目標5：ジェンダー」、「開発目標8：経済成長と雇用」、「開発目標9：インフラ、産業化、イノベーション」）

全ての人に信頼される物流であり続けるためには、まず「安全性向上」が求められてくる。同社では平成26年から、毎年年度初めのゴールデンウイーク前後に「安全推進決起大会」を開催。車両事故・荷物事故防止に関する1年間の活動報告を行った上で、新年度の目標を発表（今年度の目標は「リフト作業による荷物事故の削減」）。また、この他にも事故防止に向けた研修や事例共有などを定期的に実施し、全社を挙げて安全意識向上に取り組んでいる。

「安全推進決起大会」の開催を通じ、安全意識向上に取り組む


災害発生時でも物流を絶やさないため、自家発電機を設置した

東南海・南海地震や台風などの災害等により停電が発生した場合に備えて、同社では太陽光発電システムや自家発電機を社内に整備。災害発生時においても本社機能を維持し、物資輸送を途絶させないように備えている。

一方で、持続可能な物流インフラを提供していくにあたっては、従業員にとって働きやすい職場環境を整備していくことも欠かせない。同社では、特に女性ドライバー（現在2人在籍）が働きやすいように、2トン車やハイエースなどの導入を進めるほか、家庭と仕事の両立を図る観点から有給休暇を取得しやすい環境の整備を進めている。

また、令和3年に創立50周年を迎えたのを機に、平成29年から3年間かけて本社をリフォーム。オフィスや休憩室などを刷新し、快適な職場環境を実現したほか、自社倉庫や屋根付き駐車場の設置など本社機能も拡充した。

なお、令和2年には「運転者職場環境良好度認証制度（働きやすい職場認証制度）」の一つ星を取得している。

②健康でいきいきと働けるように、従業員の健康維持・増進の活動（「開発目標3：保健」、「開発目標8：経済成長と雇用」）

同社における様々な取り組みにより、車両事故・荷物事故は大きく減少した。また、従業員の定着率アップにも繋がったという。

「SDGsは17のゴール・169のターゲットから構成されており、その内容は実に多岐にわたっています。当社においても、当初は『全てに取り組まなければならないのでは、とても手に負えない』と、必要以上に難しく考えていたところもありました。しかし、『持続可能な事業運営の実現』を目指して自社を改善していくために、まずはできることから一歩踏み出してみるというのが大事ではないかと考えています。SDGsへの理解が広がりつつある中で、SDGsへの取り組みを進めている運送会社に対する荷主からの信頼度も上がってきています。当社における、従業員にとって働きやすい職場環境への改善に向けた取り組みはまだ途上ではありますが、SDGsへの取り組みを通じて従業員に『ここで働いていてよかった』と思ってもらえる会社であり続けるために、一つひとつの取り組みをさらに磨き上げていきたいと考えています」（同）

（取材協力）名備運輸㈱
丸川靖彦代表取締役社長

持続可能な事業運営を実現させるために
まずは「できることから一歩踏み出して」

さて、同社における様々な取り組みをドライバーやその家族により知ってもらうためのツールとして、同社では平成27年から社内報「MEIBI NEWS」を発行している。

同社ではまず、ドライバーに自社の取り組みを知ってもらうために、社内報を作成し、社内に掲示。その後、取り組みをドライバーの家族にも知ってもらうため、自宅への郵送に切り替えた。

「従業員に当社で長く働いてもらうために、最も重要なのは『当社へのご家族のご理解』だと考えています。ご家族に当社の取り組みをより深く知っていただき、当社の味方になっていただくことで、『トラック運送業界で働くのはやめてほしい』と従業員に対して離職を促すようなこともなくなります。これは、当社にとっては『持続可能な事業運営の実現』にも繋がってくるのです」（丸川社長）

企業プロフィール

社　　名	名備運輸㈱
本社所在地	愛知県小牧市入鹿出新田312-1
代 表 者	代表取締役社長　丸川　靖彦
創業・設立	昭和46年4月13日
資 本 金	1,000万円
社 員 数	55人　（うちドライバー45人）
車 両 数	50台

ISUZU

こわれない車を目指して。

高稼動を支える
メンテナンスリース。
決め手は「予兆整備」

つながることで予兆整備ができる、
いすゞだけのメンテナンスリース。
“プレイズムコントラクト”

国内唯一「予防・予兆整備」（メンテナンスリース）

休むことなく走り続けるトラックのトラブルを、メンテナンスリースだけで未然に防ぐことは困難でした。いすゞは車両の不調データの解析と高度純正整備を組み合わせた“予防・予兆整備”を、定額リースにパッケージした日本で唯一のメンテナンスリース「プレイズムコントラクト」をご用意。故障の芽を摘み取り、高稼動・安定稼動に寄与します。

もっと走れる明日のために。
GIGA

トラックと物流ビジネスに関することは、すべてプロフェッショナルパートナーISUZUへ。いすゞ自動車（株）お客様相談センター　0120-119-113 9:00～12:00、13:00～17:00月曜～金曜（除く所定の休日）https://www.isuzu.co.jp シートベルトをしめ、スピードを控えた安全運転を。点検整備をしっかりしましょう。